

地域再生計画

1 地域再生計画の名称

あかいわ体験・滞在型観光推進プロジェクト

2 地域再生計画の作成主体の名称

赤磐市

3 地域再生計画の区域

赤磐市の全域

4 地域再生計画の目標

(背景と課題)

赤磐市には、隣接する岡山市の後楽園や倉敷市の美観地区のような単独で集客力のある施設は存在しないものの、次のような複数の優れた観光資源を有している。

〔 ドイツの森、竜天天文台、吉井竜天オートキャンプ場、是里ワイナリー、両宮山古墳、熊山英国庭園、熊山遺跡、片鉄ロマン街道、白桃、ブドウ、日本酒等 〕

近年では、多くの訪日外国人をはじめ国内観光客も、食、文化、伝統、自然、おもてなしといった体験そのものを滞在して楽しむ観光が主流になりつつあるが、本市の観光資源においては、多様な滞在・体験を求める訪問客へのニーズへの対応が進んでおらず、訪問・滞在客のは固定化したままである。

このように多様な観光客のニーズに対応できていないことで、本市やその周辺地域へ新たな訪問・滞在客層の取込みの機会を失っている。訪問・観光客が周遊・滞在することにより生まれる飲食店、宿泊施設、公共交通、特産品等販売店、体験農園などの利用者が増加する機会が失われ、地域所得の向上や雇用の創出に繋がっていない。

(目標)

本市内の観光資源・施設について、これまでの訪問客、観光客の固定化から脱却し、多様な滞在や体験ニーズに応えうる魅力ある体験・滞在プログラムの企画や情報発信、さらには体験・滞在拠点の整備を、近隣市町村とも協力し、有機的に連携して行っていくことで、国内観光客のみならず訪日外国人に対して地域資源・観光資源、文化・伝統、その魅力を余すことなく提供するとともに、満足度の高いおもてなしを展開することにより、観光客を増加させ、地域内での商品購入を促すことで、宿泊業、農林水産業、輸送業、飲食業、情報通信業など、多くの産業の分野で好循環を生み出し、地域の雇用創出と経済の活性化につなげていく。

【数値目標】

	事業開始前 (現時点)	平成28年度 (1年目)	平成29年度 (2年目)	平成30年度 (3年目)
赤磐市の観光客入込数(人)	470,400	14,000	15,000	18,000
吉井竜天オートキャンプ場(グランピングサイト含む)の入込客数(人)	8,240	190	200	230
グランピングサイトにかかる体験プログラムの設定数(件)	0	0	2	1

熊山英国庭園におけるサービス等体験プログラムの売上（千円）	0		2,400	1,200
熊山英国庭園への入込客数（人）	32,300		1,000	1,000

	平成31年度 （4年目）	平成32年度 （5年目）	平成33年度 （6年目）	KPI増加分の 累計
赤磐市の観光客入込数（人）	12,600	12,600		72,200
吉井竜天オートキャンプ場（グランピングサイト含む）の入込客数（人）	230	230		1,080
グランピングサイトにかかる体験プログラムの設定数（件）	1	1		5
熊山英国庭園におけるサービス等体験プログラムの売上（千円）	720	430	250	5,000
熊山英国庭園への入込客数（人）	1,200	1,200	1,200	5,600

5 地域再生を図るために行う事業

5-1 全体の概要

赤磐市まち・ひと・しごと創生総合戦略に基づく、体験・滞在プログラムの企画や情報発信の取組や別途地域再生計画で推進している吉井川流域広域観光連携事業と連携・調整を図りつつ、本市所有の観光施設について、固定化した訪問客層の解消と新たな訪問客層の開拓により観光・滞在客の増加を図るため、訪問客や観光客の多様な滞在・体験ニーズに応えうる受入れ環境や拠点を未来型の滞在・体験型拠点として整備する。

5-2 第5章の特別の措置を適用して行う事業

（1）地方創生拠点整備交付金【A3007】

1 事業主体

赤磐市

2 事業の名称及び内容

（事業の名称）吉井竜天グランピングサイト等整備事業

（事業の内容）

吉井竜天オートキャンプ場内に、いわゆるグランピング施設等を新築することにより、訪日外国人の自然体験ニーズや多様なキャンプニーズ等に応えることができる未来型の自然体験・滞在型サイトとしてリニューアルを図る。

3 事業が先導的であると認められる理由

【自立性】

新築するグランピング施設にかかる運営については、当面行政が運営を行うが、別途、民間事業者が本年度に設立し、概ね3年後を目途に自立を目指すあかいわ地域商社（株AKAI IWA）が運営を担うこととしている。

【官民協働】

グランピング施設における食事の提供については、民間事業者であるあかいわ地域商社と連携して、地元食材を利用する。

施設までのアクセスについては、地元タクシー会社等の協働を図るほか、施設に隣接する集落（中勢実地区）との協働により、農業体験、森林浴体験、お祭り体験等を展開する。

さらに、宿泊サイトに隣接する竜天天文台（教育委員会）の星空ガイド（岡大）と連携して、星空体験等を展開する。

【地域間連携】

本施設は、吉井川流域DMOエリアの観光拠点の1つであり、同エリアの最高標高地点に位置する拠点として、訪日外国人等が快適に宿泊できる施設として整備することにより、本流域エリアの面的広がりに加え、3次元方向（高さ方向）の広がりが加わることとなり、吉井川流域広域観光エリアの厚みが大きく広がるものである。

【政策間連携】

着地型体験メニューにより、地元集落住民の所得の増大、雇用の創出が図られるほか、集落の維持に寄与する。さらに竜天天文台の活性化と美しい星空への関心の高まりを通じた知己住民による魅力の再発見等による郷土愛の醸成にも資する。

【その他先導性】

4 重要業績評価指標（KPI）及び目標年月

【数値目標】

	事業開始前 （現時点）	平成28年度 （1年目）	平成29年度 （2年目）	平成30年度 （3年目）
吉井竜天オートキャンプ場（グランピングサイト含む）の入込客数（人）	8,240	190	200	230
グランピングサイトにかかる体験プログラムの設定数（件）	0	0	2	1

	平成31年度 （4年目）	平成32年度 （5年目）	KPI増加分の 累計
吉井竜天オートキャンプ場（グランピングサイト含む）の入込客数（人）	230	230	1,080
グランピングサイトにかかる体験プログラムの設定数（件）	1	1	5

5 効果検証の方法、時期及び体制

関係市町の地方版総合戦略に係る有識者会議から委員数名を選出し、広域連携DMO用の外部組織を設置し、この外部有識者会議において、KPIの達成度、事業改善方法等を検証する。

検証結果については、関係市町のホームページ等で公表する。

6 交付対象事業に要する費用

法第5条第4項第1号イに関する事業【A3007】

総事業費 75,000千円

7 事業実施期間

地域再生計画認定の日から、平成33年3月31日（5カ年度）

8 その他必要な事項

該当なし

（2）地方創生拠点整備交付金【A3007】

1 事業主体

赤磐市

2 事業の名称及び内容

（事業の名称）熊山英国庭園セラピー体験棟整備事業

（事業の内容）

熊山英国庭園場内に、アロマ・ガーデンセラピーを体験・実践するセラピー体験棟等を増築することにより、リフレッシュやリハビリ等といった新たな来園ニーズを生み出し、これに答える未来型の体験・滞在型庭園としてリニューアルを図る。

3 事業が先導的であると認められる理由

【自立性】

本事業により、セラピー体験棟を中心とするセラピーガーデンエリアを整備することを契機として、市外来園者から入園料を徴収を再開するとともに有料体験プログラムの導入を図る。セラピー体験棟等においては、地域商社や民間事業者等による各種セラピー体験プログラム等を展開し、売上等により収益を確保する。また、あかいわ地域商社「株AKAI IWA」が既設カフェでの飲食の提供や既設ショップで地域特産品等の販売を予定しており、体験プログラムによる集客との相乗効果により収益性を確保し、地域商社が自立自走を目指す平成31年度までに、地方創生推進交付金等に頼らない運営を目指す。

【官民協働】

同庭園内の既設カフェ及び既設ショップについては、地産地消の推進の観点から本年4月より、本市が支援する地域商社AKAI IWAが担う予定である。あわせて、同商社は、既設の工芸・カフェ棟等を利用し、絵画やフラワー、陶芸等の体験プログラムをスタートする予定である。体験プログラムのうち、セラピー体験については日本ガーデンセラピー協会顧問の阿部容子氏（隣の和気町生まれ）の助言を受けつつ、各種療法士を常在させていく計画である。

また、本施設は地域おこし協力隊の活動拠点として活用しており、本事業による既存施設の模様替え等に合わせ、地域の小ビジネスの展開拠点としても活用を図るべく、協力隊と連携を図っていくこととしている。

【地域間連携】

本市では、近隣市町とともに吉井川流域広域観光連携事業（吉井川流域DMO）に着手し、市内の主要観光施設等についても、固定化した客層から脱却し、新たな客層を取り込みと体験・滞在により、地域の稼ぐ力を引き出すべく、運営体制の見直しや施設整備を進めている。

本庭園は吉井川流域DMOのエリア内でも有数の観光拠点の1つであり、周辺には、和気鵜飼谷温泉（和気町）、片鉄サイクリングロード（赤磐市・和気町）、熊山ノルディックウォーク（赤磐市）や桜・紅葉ハイキングで人気の倉掛山（赤磐市）、自然保護センター（和気町）など自然や健康が意識される施設・拠点が点在していることから、吉井川流域DMOにおけ

る体験型観光の拠点の1つとして周遊ルート設定等で近隣市町との連携を図っていく予定である。

【政策間連携】

本庭園は、吉井川流域の主要観光拠点の1つとして、セラピー体験やリフレッシュ体験など体験型・着地型観光の一翼を担うだけでなく、芳香療法をはじめ食、陶芸、絵画などを通じた作業療法体験などを、地域商社AKAI IWAはじめ民間事業者が提供する環境を整えることで、地域の雇用の拡大と所得の向上につなげる。

また、現在も高齢者や要介護者のリハビリやリフレッシュの外出先として本庭園が選択されていることも踏まえ、今後の提供する各種セラピー体験を通じて、地域内外の健康増進に繋げるなど、医療施策との連携も図ることができるものと考えている。

さらに、セラピー体験をコンセプトにした庭園は日本に数少ないことから、このような施設を有することは本市や吉井川流域の魅力の1つとなるものであり、域外からの移住・定住も見込むことができる。

【その他先導性】

4 重要業績評価指標（KPI）及び目標年月

【数値目標】

	事業開始前 (現時点)	平成29年度 (1年目)	平成30年度 (2年目)	平成31年度 (3年目)
熊山英国庭園におけるセラピー等体験プログラムの売上(千円)	0	2,400	1,200	720
熊山英国庭園への入込客数(人)	32,300	1,000	1,000	1,200

	平成32年度 (4年目)	平成33年度 (5年目)	KPI増加分の 累計
熊山英国庭園におけるセラピー等体験プログラムの売上(千円)	430	250	5,000
熊山英国庭園への入込客数(人)	1,200	1,200	5,600

5 効果検証の方法、時期及び体制

関係市町の地方版総合戦略に係る有識者会議から委員数名を選出し、広域連携DMO用の外部組織を設置し、この外部有識者会議において、KPIの達成度、事業改善方法等を検証する。

検証結果については、関係市町のホームページ等で公表する。

6 交付対象事業に要する費用

法第5条第4項第1号イに関する事業【A3007】

総事業費 45,000千円

7 事業実施期間

地域再生計画認定の日から、平成34年3月31日(5カ年度)

8 その他必要な事項

該当なし

5-3 その他の事業

5-3-1 地域再生基本方針に基づく支援措置

該当なし

5-3-2 支援措置によらない独自の取組み

(1) 吉井川流域に点在する観光資源の広域連携事業（地方創生加速化交付金）

事業概要：赤磐市、瀬戸内市及び和気町の広域連携による吉井川流域DMO準備会議を立ち上げ、「DMO設立に向けた準備会議の運営」、「地域資源に係る歴史・文化コンテンツの収集等」、「広域周遊観光ルートの設定等」、「多言語対応型の受入れ環境の整備」、「広域観光ルートのプロモーション」を行う。

実施主体：赤磐市、瀬戸内市及び和気町

事業期間：平成28年度

(2) 商工業・観光振興による賑わいと活力創出プログラム（第2次赤磐市総合計画）

事業概要：①産業人材の育成、②交流連携による地域産業の活性化、③周遊・滞在できる観光ルートの形成等を推進する。

事業主体：赤磐市

事業期間：平成27年度～平成32年度

平成32年度は赤磐市第2次総合計画の後期基本計画に沿って実施。

(3) 強い農業の確立プログラム（第2次赤磐市総合計画）

事業概要：①経営感覚を持った農業経営者の育成、②農産物の高付加価値化・地域ブランド化、③6次産業化・次世代農業等を推進する。

事業主体：赤磐市

事業期間：平成27年度～平成31年度（前期基本計画）

平成32年度は赤磐市第2次総合計画の後期基本計画に沿って実施。

6 計画期間

地域再生計画認定の日から平成34年3月31日

7 目標の達成状況に係る評価に関する事項

7-1 目標の達成状況に係る評価の手法

毎年度、関係市町の地方版総合戦略に係る有識者会議から委員数名を選出し、広域連携DMO用の外部組織を設置して評価を行う。

7-2 目標の達成状況に係る評価の時期及び評価を行う内容

概ね各年度5～6月を目途に、外部有識者会議において、設定したKPIの達成度、事業改善方法等の検証評価を行う。

【数値目標】

	事業開始前 (現時点)	平成28年度 (1年目)	平成29年度 (2年目)	平成30年度 (3年目)

赤磐市の観光客入込数(人)	470,400	14,000	15,000	18,000
吉井竜天オートキャンプ場(グランピングサイト含む)の入込客数(人)	8,240	190	200	230
グランピングサイトにかかる体験プログラムの設定数(件)	0	0	2	1
熊山英国庭園におけるサービス等体験プログラムの売上(千円)	0		2,400	1,200
熊山英国庭園への入込客数(人)	32,300		1,000	1,000

	平成31年度 (4年目)	平成32年度 (5年目)	平成33年度 (6年目)	KPI増加分の 累計
赤磐市の観光客入込数(人)	12,600	12,600		72,200
吉井竜天オートキャンプ場(グランピングサイト含む)の入込客数(人)	230	230		1,080
グランピングサイトにかかる体験プログラムの設定数(件)	1	1		5
熊山英国庭園におけるサービス等体験プログラムの売上(千円)	720	430	250	5,000
熊山英国庭園への入込客数(人)	1,200	1,200	1,200	5,600

7-3 目標の達成状況に係る評価の公表の方法

目標の達成状況に係る評価については、毎年度関係市町のホームページ等で公表する。